

富山県小矢部市
桜町遺跡発掘調査報告書

—道の駅メルヘンおやべ駐車場整備に伴う埋蔵文化財調査—

2015年6月

小矢部市教育委員会

例　　言

1. 本書は、富山県小矢部市桜町字産田に所在する桜町遺跡産田地区で実施した本発掘調査の報告書である。
2. この調査は、道の駅メルヘンおやべ駐車場整備に伴うもので、小矢部市教育委員会の監理の下、株式会社エイ・テックが実施した。
3. 調査年度、調査地区名、発掘面積、調査期間は下記のとおりである。
 - ・2014（平成26）年度　産田地区、654m²、2015年2月16日～3月31日（延27日）。
4. 調査主体は小矢部市教育委員会である。調査担当者は下記のとおりである。

総括	小矢部市教育委員会生涯学習文化課　課長　清水 功一
主務（監督員）	*
主任調査員	株式会社エイ・テック　主査 大野 淳也 岡田 一広
5. 本書の編集・執筆は、大野・岡田が実施した。文責は文末に記載した。
6. 本書の図・写真図版の表示は次のとおりである。
 - 1) 遺構の番号は、調査現場で付した番号である。番号は遺構の種類ごとに連番号とした。
 - 2) 遺構の略号は以下のとおりである。

S B : 建物	S D : 溝	S K : 土坑	S P : ピット
----------	---------	----------	-----------
 - 3) 本書で示す方位は座標北で、水平基準は海拔高である。
 - 4) 引用・参考文献は、著者と発行年（西暦）を〔 〕で文中に示し、巻末に一括して掲載した。
 - 5) 遺構図の縮尺は1／80・1／200・1／500とし、遺物図の縮尺は1／1・1／2・1／3とした。
 - 6) 遺構および遺物の写真図版の縮尺は全て任意である。
7. 出土遺物と調査に関する資料は、小矢部市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査中および報告書作成中、関係者および関係機関から多大な御教示・御協力を得た。ここで謝意を表した
△△△

目　　次

第Ⅰ章　位置と環境	1
第Ⅱ章　調査に至る経緯	2
第Ⅲ章　調査の成果	3

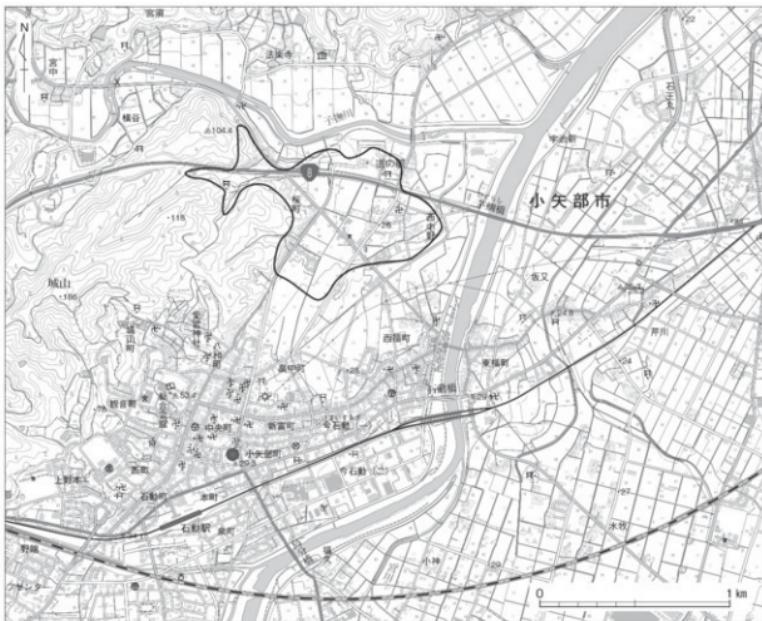
第Ⅰ章 位置と環境

小矢部川は富山県南砺市大門山に発し、南砺市太美地区で平野部へ出て、庄川扇状地の西端部を迂回するように北流し高岡市伏木で富山湾へ注ぐ全長68kmの川である。子撫川は宝達山の東麓である沢川を発し、稲葉山の西側から南側を流れ、小矢部市田川地内で小矢部川に合流する全長19.8kmの川である。この小矢部川と子撫川の合流地点の右岸側河岸段丘上に桜町遺跡は立地する。

桜町遺跡は、東西約1.0km、南北約0.8km、面積約60万m²を測る。発掘調査は主に国道8号小矢部バイパスの建設に伴い調査をし、縄文時代早期～晚期、弥生時代前期～終末期、古墳時代前期～後期、飛鳥時代、奈良時代、平安時代前期、鎌倉時代～江戸時代の複合遺跡であることが判明した。

縄文時代は主に西側谷部に遺構があり、水さらし場遺構、環状木柱列、仕口加工のある建築材などを確認した。飛鳥時代から平安時代にかけては産田地区を中心に遺構があり、古代北陸道と推定する南西～北東方向の道路を中心に掘立柱建物群を確認した。また「長畠（岡）神祝」「長畠（岡）」等の墨書土器が出土することから和名類聚抄に記載されている砺波郡長岡郷の可能性がある。中世では掘立柱建物を確認した。当遺跡周辺は吾妻鏡に記載されている東福寺領宮島保に比定されている。

（岡田）



第1図 桜町遺跡位置図 (1/25,000)

第Ⅱ章 調査に至る経緯

既往の調査

桜町遺跡は、1971年（昭和46）に富山県教育委員会が実施した分布調査事業により確認され、「富山県遺跡地図」（1972年刊）に桜町A遺跡と桜町B遺跡の2ヶ所が登載された。その後、小矢部市埋蔵文化財分布調査团が1979年（昭和54）から実施した分布調査によって、遺跡の範囲が東西1.25km、南北0.8km、面積が約60万m²に拡大し、縄文時代から近世までの各時代にわたる複合遺跡であることが確認された〔小矢部市教委1980〕。遺跡内では、国道8号バイパス建設に伴う発掘調査を1980（昭和55）年から2003年（平成15）まで断続的に実施したほか、各種開発に伴う発掘調査も実施している。

調査の経過

道の駅メルヘン小矢部の敷地内については、平成17年度に試掘調査を、平成19年度に本調査を実施している。今回の調査地周辺は、緑地帯として保護することを前提に本調査の対象から除外した部分であるが、平成27年夏に隣接する東部産業団地内に大型商業施設がオープンすることに伴い、道の駅利用者の増加が見込まれることから駐車場の拡張が計画され、その部分について事前の発掘調査を実施することとなった。発掘調査は小矢部市教育委員会の監理の下、株式会社エイ・テックが実施した。調査面積は654m²、調査期間は平成27年2月16日から3月31日までの延べ27日間である。

（大野）



- 1. 産田地区 (2015) 2. 古代雷・驚場地区 (1981) 3. 小三味地区 (1982) 4. 東東地区 (1983) 5. 産田地区 (1984)
- 6. 産田地区 (1983) 7. 産田地区 (1993) 8. 産田地区 (2007) 9. 産田地区 (2009) 10. 産田地区 (1983)
- 11. 中出地区 (1986) 12. 産田地区 (1985) 13. 中出地区 (1987) 14. 中出地区 (1986) 15. 舟岡地区 (1988・1989)
- 16. 舟岡地区 (1988・1996～1998) 17. 舟岡地区 (1999) 18. 舟岡地区 (1999～2002) 19. 舟岡地区 (2000～2003)
- 20. 舟岡地区 (1990) 21. 深沢地区 (1987) 22. 鶴谷地区 (1985) 23. 産田地区 (2014)

第2図 桜町遺跡、既往の調査区（1／10,000）

第Ⅲ章 調査の成果

グリッド

調査区のグリッドは世界測地系（2011）の平面直角座標系の第7座標系（原点北緯 $36^{\circ} 00' 00''$ 、東経 $137^{\circ} 10' 00''$ ）に合わせた。東西をアルファベット、南北を数字で表し、グリッドの南西隅の表記がそのグリッドを表すものとし、10mごとに増えることとした。A 1 の地点は原点より北へ 76.490km 、西へ 26.080km の地点である。

基本層序

第Ⅰ層は道の駅建設に伴う造成土で1.3m堆積する。
第Ⅱ層は古代の遺物を含む包含層で、黒褐色粘土質シルトを主体とし、厚さ10~12cm堆積する。第Ⅲ層は地山で上面が遺構検出面となる。灰色粘土質シルトを主体とする。

遺構

掘立柱建物

S B01 調査区の北側、B 3区で検出した。桁行3間（5.3m）×梁行2間（4.5m）の北東～南西方向の隅柱建物で、床面積は 23.85m^2 である。軸方位はN -65.4° - Eである。柱間は、桁行では2.2m、1.5m、1.6mと等間隔ではなく、また梁行の柱間は桁行の柱間より広く2.25mを測る。柱穴は直径50cm前後の円形を呈する。いずれの穴からも注根は確認できなかった。柱穴の深さは一定ではないが約30~40cmを測る。柱穴の覆土は灰色粘土質シルト（5Y4/1）である。出土遺物は土師器・須恵器である。

土坑

S K01 調査区の北西側、B 3区で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸1.69m、短軸0.82m、深さ0.12mを測る。出土遺物は土師器・須恵器である。

S K02 調査区の北西側、B 3区で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸1.78m、短軸0.85m、深さ0.15mを測る。出土遺物は土師器・須恵器である。

S K03 調査区の北西側、A 2区で検出した。平面形は不定形で、長軸1.01m、短軸0.91m、深さ0.34mを測る。遺物は出土していない。

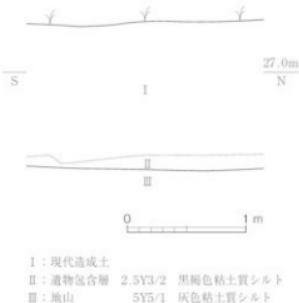
S K04 調査区の中央部、B 2・B 3・C 2・C 3区で検出した。平面形は不定形で、長軸1.98m、短軸1.50m、深さ0.27mを測る。暗渠に切られる。出土遺物は土師器・須恵器である。

S K05 調査区の西側、A 3区で検出した。平面形は隅丸長方形で、長軸1.16m、短軸0.78m、深さ0.40mを測る。出土遺物は土師器・須恵器である。

S K06 調査区の中央部、B 3区で検出した。平面形は円形で、長軸1.13m、短軸0.93m、深さ0.22mを測る。暗渠に切られる。出土遺物は土師器・須恵器である。

溝

S D01 調査区の西側、A 2・B 2区で検出した。東西方向に走る溝で、長さ1.40m、幅0.90m、深さ0.25mを測る。出土遺物は土師器・須恵器である。



第3図 基本層序（1/40）

S D02 調査区の北東側、D 3区で検出した。東西方向に走る溝で東側は調査地区外に延びる。長さ3.60m以上、幅0.45m、深さ0.27mを測る。出土遺物は土師器・須恵器である。

S D03 調査区の北東側、D 3区で検出した。東西方向に走る溝で東側は試掘トレンチに切られる。長さ2.18m以上、幅0.41m、深さ0.10mを測る。出土遺物は土師器・須恵器である。

S D04 調査区の北東側、B 3～D 3区で検出した。東西方向に走る溝で、東側及び北側は調査地区外に延びる。長さ15.26m以上、幅0.80m以上、深さ0.04mを測る。出土遺物は土師器・須恵器である。

遺物

土師器（古代） 1・2は壺である。表面は摩耗する。3は瓶の把手である。

須恵器 4はかえりをもつ杯蓋（杯G蓋）である。5は小型の杯（杯G）である。6～9は高台が付かない杯（杯A）である。10～12は杯口縁部である。13～21は高台が付く杯（杯B）の底部である。22～27は杯B蓋の口縁部である。28・29は杯B蓋のつまみである。30・31は壺の口縁部である。32は瓶類の口縁部である。

土師器（中世） 33・34は手づくねの土師器皿である。

珠洲 35～37は擂鉢である。38は壺の口縁部である。39・40は壺体部である。41は壺口縁部である。

瀬戸美濃 42は天目茶碗である。内外面に鉄釉を施す。

越中瀬戸 43は皿である。口縁部内外面に灰釉を施す。

土鍤 44は紡錘形の土鍤である。片側は欠損する。

銅銭 45は開元通寶（初鑄621年）である。

まとめ

掘立柱建物1棟（S B01）を調査区北側で確認した。S B01の軸方向は当調査区の北側の平成19年調査区のS B01・14・15、南側の昭和59年調査区のS B27とはほぼ軸が揃っている。平成19年度調査区のS B01・14・15の時期は奈良時代から平安時代前期とし、昭和59年調査区のS B27は飛鳥時代前期とする。本調査区のS B01の柱穴からは奈良時代の遺物が出土しており、また周辺の遺物も奈良時代中期を主体としていることから、奈良時代に属すると推定できる。

中世の遺構は検出できなかったが、本調査区の北西側約100mの地点にある昭和58年調査区1～8区において中世の掘立柱建物や井戸が確認できたことから周辺に集落の存在が推定できる。

（岡田）

参考文献

- 小矢部市教育委員会 1983 『桜町遺跡（産田地区）』
- 小矢部市教育委員会 1984 『桜町遺跡－城山都市下水路新設工事に伴う産田地区の調査－』
- 小矢部市教育委員会 1994 『平成5年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報』
- 小矢部市教育委員会 2003 『桜町遺跡発掘調査報告書 弥生・古墳・古代・中世編1』
- 小矢部市教育委員会 2009 『桜町遺跡発掘調査報告書』
- 小矢部市教育委員会 2010 『石名田木舟遺跡発掘調査報告書 桜町遺跡発掘調査報告書』

表1 遺物一覧表

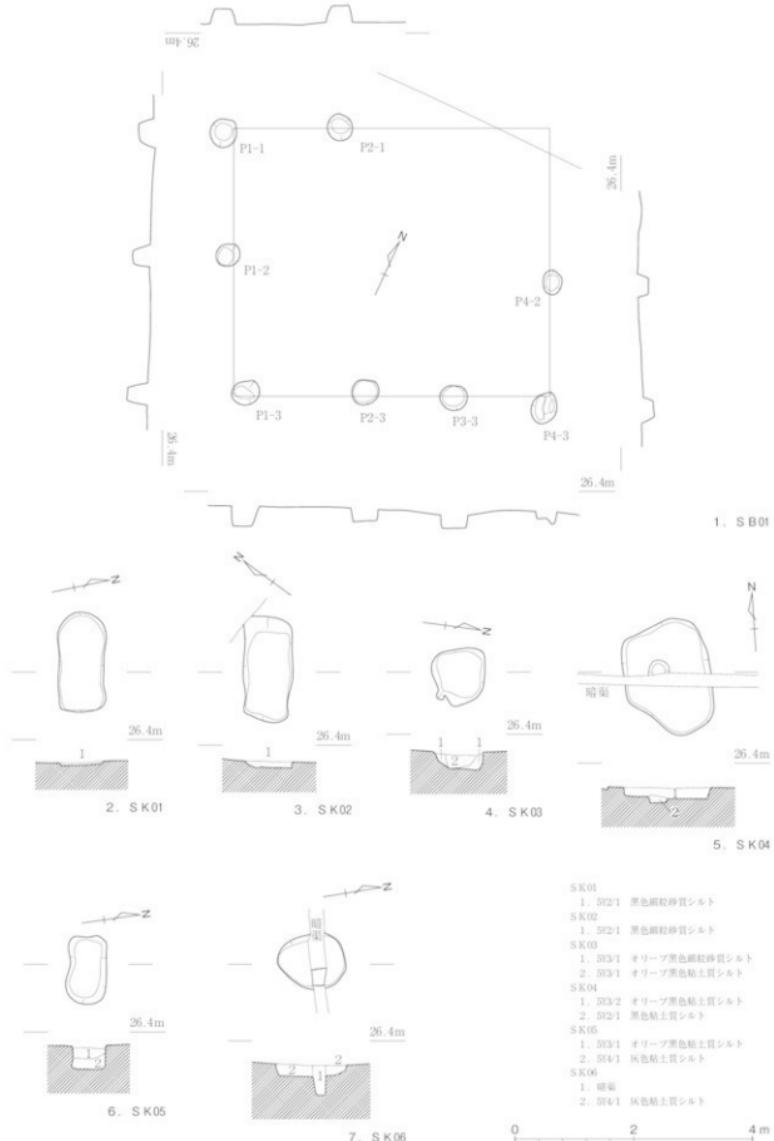
番号	種類	器種	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	時期
1	土師器	甕	C3、II層	口径21.0cm	口縁端部尖る	奈良中期
2	ク	ピット		口径12.5cm	口縁端部丸い	奈良前期
3	ク	瓶	B2、II層	—	把手	奈良・平安
4	須恵器	杯G蓋	S K05	口径10.8cm	かえりあり	飛鳥中期
5	ク	杯G	S K01	口径8.8cm、器高3.5cm	口縁端部尖る	飛鳥中期
6	ク	杯A	ピット	口径13.6cm、器高3.3cm	底部境丸い、体部聞く	奈良中期
7	ク	ク	C3、II層	口径11.9cm、器高2.7cm	ク	ク
8	ク	ク	S D04	口径10.9cm、器高3.0cm	ク	ク
9	ク	表土		口径10.9cm、器高2.7cm	ク	ク
10	ク	杯	B3、II層	口径13.9cm	口縁部	奈良
11	ク	ク	ピット	口径13.8cm	ク	ク
12	ク	ク	B3、II層	口径12.7cm	ク	平安
13	ク	杯B	S K04	底径12.6cm	高台踏ん張る	奈良中期
14	ク	ク	C3、II層	底径8.9cm	高台や踏ん張る	ク
15	ク	ク	ク、ク	底径8.5cm	高台踏ん張る	ク
16	ク	ク	ク、ク	底径8.0cm	ク	ク
17	ク	ク	ク、ク	底径8.0cm	高台が短い	平安前期
18	ク	ク	表土	底径7.9cm	高台踏ん張る	奈良中期
19	ク	ク	ク	底径7.6cm	高台や踏ん張る	奈良後期
20	ク	ク	C3、II層	底径7.6cm	高台踏ん張る	奈良中期
21	ク	ク	ク、ク	底径6.2cm	ク	ク
22	ク	杯蓋	ク、ク	口径15.7cm	口縁端部嘴状	ク
23	ク	ク	ク、ク	口径15.7cm	ク	ク
24	ク	ク	ピット	口径15.2cm	口縁端部三角	ク
25	ク	ク	ク	口径14.2cm	口縁端部折れる	ク
26	ク	ク	C3、II層	口径12.5cm	ク	ク
27	ク	ク	ク、ク	口径12.1cm	口縁端部嘴状	ク
28	ク	ク	ク、ク	—	つまみ部	ク
29	ク	ク	表土	—	ク	ク
30	ク	壺	C3、II層	口径24.1cm	口唇面形成	ク
31	ク	ク	S D01	口径23.3cm	口縁端部肥厚	ク
32	ク	瓶類	C3、II層	口径12.2cm	口縁端部丸い	ク
33	土師器	皿	B3、II層	口径11.2cm、器高2.0cm	てづくね、口縁部外反	南北朝
34	ク	表土		口径9.6cm、器高1.5cm	ク、ク	室町
35	珠洲	擂鉢	カクラン	口径39.7cm	幅広口唇部、珠洲IV期	南北朝
36	ク	ク	ピット	口径39.5cm	ク、ク	ク
37	ク	ク	B3、II層	口径27.4cm	口縁部外傾、ク	ク
38	ク	甕	C3、ク	口径32.4cm	口縁部方形	室町
39	ク	ク	C2、ク	—	体部	鎌倉～室町
40	ク	ク	カクラン	—	ク	ク
41	ク	壺	C3、II層	口径19.4cm	口唇面形成、珠洲IV期	南北朝
42	瀬戸口美濃	椀	ク、ク	口径11.1cm	鉄軸施軸	室町
43	越中瀬戸口	皿	ピット	口径10.7cm、器高2.2cm	灰軸施軸	江戸
44	土鍤		ピット	長さ4.0cm、重さ35.8g	紡錘形、片側欠損	奈良・平安
45	銅錢	開元通寶	C3、II層	直径2.4cm、重さ1.9g		中世か



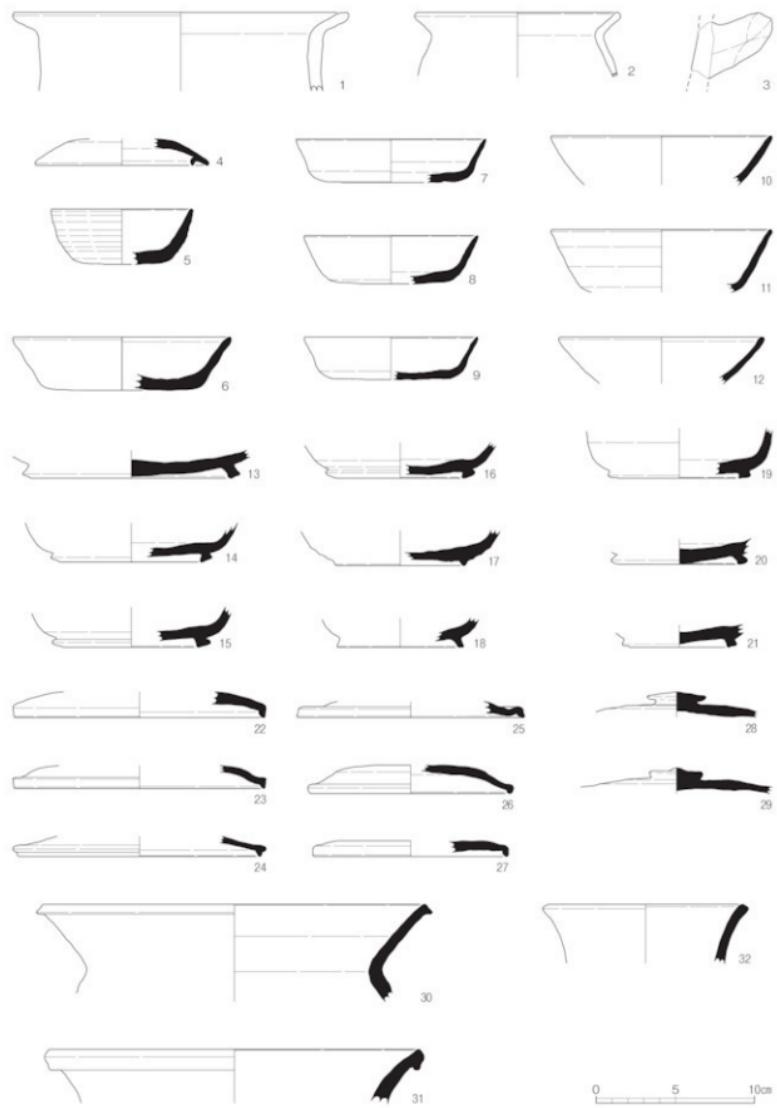
第4図 調査区全体図



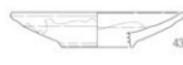
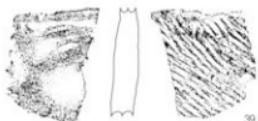
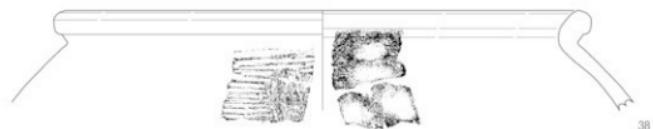
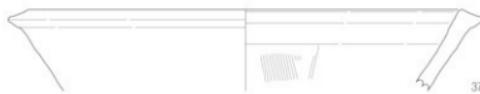
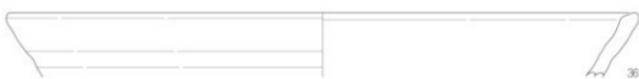
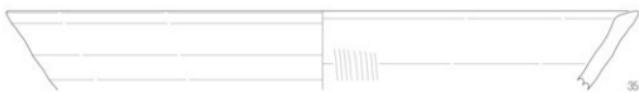
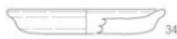
第5図 遺構全体図



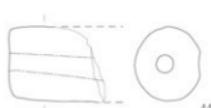
第6図 造構実測図 振立柱建物・土坑



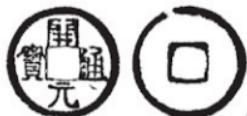
第7図 遺物実測図（1） 土師器・須恵器



0 5 10cm



0 10cm



0 5cm

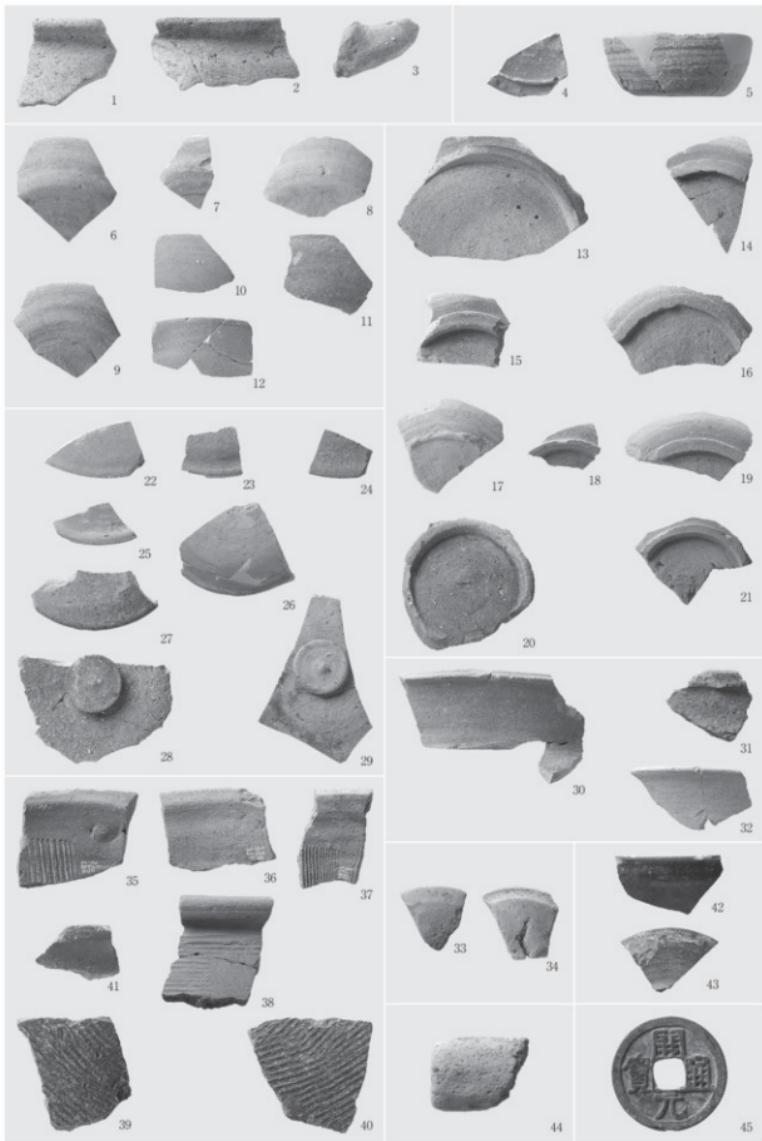
第8図 遺物実測図（2） 土師器・珠洲・瀬戸美濃・越中瀬戸・土鍤・銅錢



図版1 上：調査区遠景（西から） 下：調査区全景（東から）



図版2 上：調査区全景（東から） 下：SB01（西から）



図版3 遺物

報告書抄録

ふりがな	さくらまちいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	桜町遺跡発掘調査報告書							
副書名	道の駅メルヘンおやべ駐車場整備に伴う埋蔵文化財調査							
卷次								
シリーズ名	小矢部市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第76冊							
編著者名	大野淳也、岡田一広							
編集機関	株式会社エイ・テック							
所在地	〒939-1119 富山県高岡市オフィスパーク12番地 TEL 0766(62)0388							
発行機関	小矢部市教育委員会							
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号 TEL 0766(67)1760							
発行年月日	2015年6月30日							
ふりがな 所収遺跡	所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	。 * *	。 * *			
桜町遺跡	富山県小矢部市 桜町 産田	016209	021	36° 41' 21"	136° 52' 30"	20150216 20150331	654m ²	駐車場 整備
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記	事 項		
桜町遺跡	散 布 地	飛鳥時代	なし	須恵器				
	集 落	奈良時代	掘立柱建物 土坑、溝	土師器、須恵器 土鍤	掘立柱建物1棟の検出			
	散 布 地	中世		珠洲、瀬戸美濃 銅錢				
	散 布 地	近世		越中漸戸				
要約	桜町遺跡産田地区は、既往の調査から飛鳥時代から平安時代にかけての掘立柱建物群や古代北陸道と推測される道路址を確認した。 本調査地区でも周辺のものと軸をそろえた掘立柱建物S B01を検出した。							

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第76冊

富山県小矢部市

桜町遺跡発掘調査報告書

-道の駅メルヘンおやべ駐車場整備に伴う埋蔵文化財調査-

発行日 平成27年6月30日発行

編集 株式会社エイ・テック

発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号

TEL 0766-67-1760

印刷 中村印刷工業株式会社